

叢説

諷刺畫にあらはれたるナポレオン

文學士 中村善太郎

精細な記事や、巧妙な論文よりも、一片の落首

や一葉の諷刺畫に、物の真相を穿ち、時代の精神をさゝやくものが少くない。近頃の西洋の雜誌で見ると、面白と思はせるものは幾らもある。かゝる諷刺畫をみるにつけ、またナポレオンとカイザー、ナポレオン戦争と今次の戦争の比較が世評に上るにつれ、百年前の諷刺畫を今のと比べてみる事は、大層面白い事であらうと思つた。ナポレオンに關するものは、ブロードリー (Broadley) などの書物があつて、大體を窺

ふ事が出来るが、近頃ののものには未だこれといつて有名な畫に接しない私には、比較を試るなど、いふ事は出来ないが、概して今のものには、昔のやうな見るからに慘酷なものがない代りに、精巧なものや、心より敵を惡み、愛國心を鼓舞するやうな熱狂的の作が少なく、徒らに敵の短所を嘲笑する遊戯的の氣分の畫の方が多いやうに思はれるのである。

ナポレオンに關する諷刺畫は、大英博物館や、ビブリオテーク・ナショナル、ムゼー・カルナヴァレ、ベルンの圖書館、ドイツの諸圖書館などに多く所藏せられ、個人としては、イギリスのブロードリー、アメリカのラツタ、(Latta) オランダのファンストルク (Van Stolk) の蒐集所藏にかゝりもの多く、當時イギリスで出版せるものだけでも、ブロードリーに據れば、九百九十種残つてゐる。またこれ等の諷刺畫に關する著書には、アツ

シントン Ashton や、グランカトルレー Grand-Cartelet などの物があるけれど、一九一〇年に出版したブロードリーの「諷刺畫に現れたナポレオン」(Napoleon in Caricature) 最もすぐれ、二巻約八百頁挿畫二百三十餘、詳細に各國の諷刺畫を説明し、附録として畫家、出版元、所藏者を列記せる諷刺畫の表を添へてあるから、ホーランド・ローズの序文と共に、ナポレオンに對する列國の感情、列國の權力關係の變遷を明にする事が出来るのである。以下は主に此の書物を讀み行くうちに、多少の感想を加へながら心覺に書きつけた摘要に過ぎないのである。

元來ヨーロッパで諷刺畫の發達をみるに至つたのは文藝復興以後の事で、あらゆる方面の因襲束縛が解かれてから繪畫は非常の發達を遂げ、これにつれて諷刺畫も十六世紀の初から傑作があらはれ、アレクサンドル六世やルーテルは好畫題とし

て迎へられ、次第に諸國の諷刺畫の發達の氣運を作つた。イギリスで諷刺畫の現れるやうになつたのは、十八世紀にジョン・ブルがイギリス人の型となつて諷刺畫の上に現れてからで、それがナポレオン戦争で政治的刺戟を受け、こゝに立派な政治的諷刺畫が出て來たのである。十八世紀にイギリスの諷刺畫の基を置いたのはホーガースであつたが、時代が諷刺畫に適しない爲に技倆を示す事が出来なかつた。其後を受けたギルレー (Gillray) やローランドソン (Rowlandson) などの時代は、所謂ナポレオン時代で、ナポレオン一個人も、時代からみても、諷刺畫の發達には絶好の時であつた。ナポレオンのイタリヤ陣の後、イギリス侵入の計畫、スウイスの征服、エジプト征伐は、これまでフランス國民に謳歌したウオーツウオーソ等の文學者をも、フランスを自由の敵とし、愛國的詩人と化せしめ、愛國的熱情とフランスに對する

敵愾心は最高潮に達した。このナポレオン時代の諷刺畫には、アイザック・クルックシャンク (Isaac Cruikshank) その子ジョージ・クルックシャンク (George C.)、ギルレー、ウッドワード Woodward、ローランドソン、アンセル (Ansell) などが主なるもので、これ等の人々の諷刺畫はヨーロッパ諸國にひろまり、或は模倣せられたものが少くなかつた。また諷刺畫の出版元には、アーカーマン (Ackermann)、フォールス (Fors), ハンフリー、(Humphrey)、テッグ (Tegg)、などあつて、互に競争して諷刺畫を出版し、繪草紙屋の店頭は非常な混雑で、フォールスなどは入場料をとつて展覽會を催し、夕方の會合には畫の貸出しをやつた。要するに諷刺畫は當時の國情より俄に發展したので、國民の愛國的熱情が自然に諷刺畫に現はれ、又諷刺畫が愛國熱や敵愾心を激した事は非常であつた。ナポレオンが始めてイギリスの諷刺畫に現れたの

は、一七九七年三月十二日にフォールスから出版したアイザック・クルックシャンクの「ボナバルト、ローマにて法皇に謁見を賜ふ」の畫で、ナポレオンが其前に跪く法皇の三重冠をあら〜しく蹴り敵會の首長法王に凌辱を加へて居る。これは法王が埃太利軍に應じて再びフランスに對抗せば、法王廳を蹂躪せん事を威嚇して居るのである。その年の十月ナポレオンはイギリス征討軍の司令官の命を受け、パリに歸り、これよりナポレオンは一躍して内外の中心人物となり、諷刺畫の人氣役者となつた。一七九八年の初にイギリス侵入が愈事實と思はれたとき、早くもギルレーや、アイザック・クルックシャンクの諷刺畫が出たが、三月一日にハンフリーは、四枚一組の「成功せる侵入の結果」と題するギルレーのエッチングを出した。これはフランス軍のイギリス征服後の有様を假想したもので、その中「イギリスの共和黨に勞働を

教ふ」といふ書は、嘗ては幸福なりしイギリス人が今は恐ろしげな相と變り、破れ衣に木の靴をつけ、長き鞭を持てるフランス人に監督せられて百姓仕事をして居る畫である。しかし種々噂に上つたイギリス侵入は中止となり、五月にはナポレオンはツローンよりエジプトへ出かける事となつた。八月十三日未だネルソンの勝報に接せざる時、アイザッククルックシャンクの「豫想」はフォールスより公にせられ、ナポレオンはエジプトで生捕られた怪物として觀せ物となつて居る畫が出た。また十月廿日にはアンセルの「エジプトに於けるポナバルト」がフォールスから出た。一人のマメリユクが劍を以てナポレオンを脅かし、ナポレオンは哀を求めて居る。その右側にはフォックス、セリダンが跪いて、ナポレオンの爲に命乞をし、辯疏大いにつとめて居る。その背後にはトルコ人が絞索を持つて立つて居る。これはナポレオンに對す

る諷刺畫であると同時に、フォックス攻撃の畫で、ピット對フォックスの軋轢をしのばせるものである。また一七九九年一月一日フォールス出版のアイザック・クルックシャンクの「デレクタールの前に立てるポナバルトの幽霊」は、卓を圍める五人のデレクチュールにポナバルトの幽霊が大きな劍をつきつけ、これがイタリヤ陣の軍功に對する報酬かど怨を述べて居る。かゝる間に一七九九年十一月にブルームールのクーデターがあつてフランスはコンスル政治となり、實權はナポレオンの手に歸し、再びイギリス侵入の風説が高くなつた一八〇一年一月一日にテッグは「Hob, sep, jump」を出版した。海の中にコルシカ、フランス、野心權力、カレ、ドゥヴァーと記した多くの岩がならんでゐる。ナポレオンはコルシカの岩からフランスに飛び、野心の岩と權力の岩とに跨り、カレからドゥヴァーに渡らうとしてジョン・ブルの

劍に刺れるところを書いてある。同年三月十四日にピットは辭職し、アミヤンの條約成り、ナポレオンの勢は旭の上る如くである。その年のナポレオン三十三回の誕生日は國民的祭日の觀を呈し、イギリスからも多くの名士が招かれた。十一月五日にフォーレスはアンセルの畫といはれる「專制の社に參拜するイギリスの愛國者」を出版し、フォックス等がナポレオンの前に跪いて居る姿を描いた。しかしイギリスのためには高く買はれたアマアンの平和も、永く續かなかつた。一八〇三年にはナポレオンのイギリス侵入の噂高く、フランスに對する敵愾心は最高潮に達し、諷刺畫は引續いて出た。同年五月ローバーツから出版した「柵と菌」はイギリス國民の堅い決心を示して居る。イギリスは大きな柵であらばされ、ナポレオンは菌の姿で柵を睨んで居る。イギリスの水兵は左手に柵を抱へ、右手に棒を持ち、「此柵の一葉でも地に落ちるものでない」と力んで居る。此外ローバーツ（Robert）發行の侵入に關する諷刺畫で名高いのは、ウッドウオードの「コンスルの藝當」で、一枚の畫に二つの畫がをさめられて居る。一つはナポレオン閱兵の圖で、イギリスの富有な事、分捕勝手な事を兵士に傳へて居る今一つは一艘の船がイギリス砲臺から砲火を浴せかけられて沈み、ナポレオンは水に溺れ、無謀の企を悔いて居る光景である。十月に入りてはイギリス征伐の準備成れりとの噂益々高く、世間は追々騒がしくなり、ウオージウオースは詩を作つて祖國の勝利を祈り、國民は再びピットにたよつて難關を切り抜けんとする。諷刺畫にも、ナポレオンがピットの番兵を見て、此男がまだ生きてゐてはと引還す畫などが出た。一八〇四年にはいると、フランスではナポレオンの即位確定し、イギリスでもアッチェントン内閣は持ちこたわられず、再びピットが病軀を提げて内

閣にたち、五月には第三ヨロツバ大同盟が組織せられた。六月一日ウイリヤムスン (Williamson) から出したアイザック・クルックシャンクの「正當の所有主」には、ルイ十六世の幽霊が現はれて、ナポレオンの王冠を指しそれは私のだと言つてゐる。十二月二日ノートルダム寺院にて莊嚴な即位式が舉げられると、海峡の向ふでは十二月十四日にアーカーマンはローランドスンの「レブブリク夫人の死を」出し、ハンフリーからギルレーの「ナポレオン即位の行列」が出た。ナポレオン部下の諸國は皆參列し、法王はセントピーターの鍵を三色の紐で首にかけ、自由は撞木杖にすがつて列に加はる光景である。次いで一八〇五年フランスはトラファルガルの海戦で大打撃を受けたが、ウルム、アウステルリッツの戦、プレッスブルグの和議で第三聯合は破れ、ピットは祖國の前途を思ひながら憂死した。この年の二月廿日ハンフリー

はギルレーの「一七九七年の冬バララの前にて裸體踊をなせるタリアン夫人とジョセフィン」を出版した。幕の中には、バララが一杯機嫌で裸體踊の二人の女をながめてゐると、ナポレオンは幕の外から隙見をしてゐる畫である。ナポレオンは妻に對する凌辱を非常に氣にする人であるから、此諷刺畫は彼の神經を惱ましたに相違ない。一八〇六年一八〇七年はナポレオン得意の時代であるが、また失脚の種をまいた時代である。一八〇七年七月の中頃ウオーカー (Walker) から出たアンセルの「筏の上にて皇帝相擁す」はチルシット條約を諷したもので、ニーメン河に浮べる筏の上で、アレクサンドルはナポレオンを擁し、筏は半ば沈み、プロシヤ王は水中に陥れる畫である。また大陸制度に關する諷刺畫も多く出た。同年十一月にテツグの公にしたアンセル「封鎖のしあひも」その一である。ジョン・ブルとナポレオンはそれ／＼前に

封鎖の壁をひかへ、ジョン・ブルは焼肉の皿、ナポレオンはスーブの皿を前にして腰掛け、ジョン・ブルの壁には穴があつて、海上の船をながめて居る。畢竟ナポレオンの封鎖令が毒蛇である事を暗示したものである。また「大男の商業、小男の封鎖に勝つ」といふやうな畫も出た。一八〇八年に入りナポレオンは依然列強を壓したが、イスパニヤに對する陰險な處置は、忽ち激烈な反抗を惹起し半島に起つた愛國的運動はドイツ諸國に傳はり、ナポレオン没落の端緒をひらいた。バイレンの敗報が傳はると、八月三日にはテッグはウツドウォードの「小人國のイスパニヤをピレネー山脈からのぞいてゐるバヨンスの大人國の人」を公にした。これはガリヴァーの小説より採つたので、此頃の諷刺畫によくあらはれてゐる。大人國の人として描がれたナポレオンとジョセフは、山の背後からイスパニヤ戦争をながめ、かゝる小人國に敗けるのを憤り、ジョセフはイスパニヤの王冠をポケットに藏つてくれどナポレオンに懇願してゐる畫である。その外イスパニヤの屠獸者がナポレオンの頭を切り去り、オーストリヤの鷲がその頭をついてゐる畫なども出た。イスパニヤの奮起がオーストリヤその他の國民に傳はり、諸國の國民的運動に資せるを暗示したものであらう。次でジョセフの離婚、イギリス侵入の計畫なども諷刺の畫題となつたが、一八一二年のロシア征伐は十年前のイギリス侵入の噂の高かつた時にも劣らぬ程多くの諷刺畫を生んだ。此時にはアイザック・クルックシャンクやウツドウォードは死し、ジョージ・クルックシャンクの時代で、多くの作品を公にし、僅一年の内に彼の名聲は俄に高まり、多くの資産を造つた。一八一三年二月廿一日にハンフリーから出たジョージ・クルックシャンクの「英雄の歸國」には、ナポレオンの妻子、宮中の婦人等

は、耳鼻指を失へるナポレオンを見て戦慄し、小
供はむつかり、犬はナポレオンに吠わつて居る
光景を寫して居る。また同年四月フォーレスより
出した畫家匿名の「ロシヤ侵入再度の計畫」には
ナポレオンが不具の士官等に取巻かれて、ロシヤ
侵入を議し、ペテルブルグを奪ひ、シベリヤに侵
入すべきを廣言してゐると、傍の鼻や脚のない士
官がロシヤ戦争は懲り／＼だと言つて居る。概し
て此頃のイギリスの諷刺畫はロシヤの畫家より採
つたものが多く、所謂冬、霜、飢の三將軍に苦め
られしを諷して居るのが多數である。ロシヤ遠征
に失敗せるナポレオンは、更に翌年ライプチヒの
敗戦に復起つ能はざる運命に陥つた。一八一四年
三月廿一日テング出版のエルムズ(Elms)の「ジョ
ン・ブルボニーの鼻を砥石にて研ぐ」には、ジョ
ン・ブルボニーの鼻を砥石に押し付け、ロシヤ
皇帝が砥石を回して居る圖である。かやうにナポ
レオンは四面楚歌の聲の内に帝位を辭し、エルバ
へ流される事となつた。エルバ島のナポレオンに
就いては、多くの諷刺畫が出たが、英雄の末路を
悼むやうなもの無く、慘酷極まる畫が少くなか
つた。同年の夏マルチン(Martin)より出たジョー
ジ・クルックシャンクの「今のプロミシアス」は正
義が目かくしをして、左の手に天秤、右の手に劍
を持ちて立ち、天秤の盤の一つから三色旗、他の
方から王冠と旗ごが下つてゐる。右手の劍は火焰
の形となり、イギリス、オーストリア、プロシヤ
ロシヤ、スウェーデンの名記さる。正義の足もとに
は帝冠と軍旗蹂躪せられ、その側にはナポレオン
鎖にて岩に繋かれ、鷲の爲に胸をつゝかれて斃れ、
背景には平和豐滿の象がその種子を地球の上に撒
いて居る。君主倒れてヨーロッパは平和の天地と
なれりとの諷刺である。然しあくまで運命に逆ひ
行くナポレオンは、エルバを遁れて「百日」の君

主となつたが、ワテルローの一戦に最後の止めをさされた。此戦の夕一八一五年七月十七日ハンフリーは、ジョージ・クルックシャンクの「ヴェスヴィオの噴火と其結果の豫想」を出した。右の方にはヴェスヴィオが火焰を吐き、その麓にナポリの町あり。國王ミュラーと其妻は噴火口より倒に落ち來り、ナポリの王冠は正統の所有主の頭に降り來る。ナポリ灣には數艘の軍艦浮び、三色旗の上にイギリスの軍旗翻り、中央には死物狂の戦ひの末、ナポレオン馬より落ち、士卒傷いて斃る。左の端には橄欖の枝を啣へし鳩現はれ、雲の下にはロシア、プロシヤの君主、ルイ十八世、プリュッヘル、ウエリントンあらはれ、フランス軍に風雨電光を浴せかけて居る。これは聯合軍側の勝利を豫言し、ナポレオンに與せしミュラーは王位を奪はれ、ブルボン家の復歸を豫言したものである。ワテルローの役後、年内には可なり諷刺畫が出

が、此流竄の英雄の爲めに一掬の涙をそぐものはない。七月にナイト (Knight) 發行の「蒸煮にされるボニー」は、ナポレオンが大釜へ入られ、釜の下にはウエリントン、プリュッヘルを守るワテルローの火が燃えて居る。かやうにナポレオンの約廿年の政治的生涯に對してあらはれたイギリスの諷刺畫は、ブロードリーのによると九百九十種に上り、當時の諷刺畫はイギリス獨占の有様であつた。そうしてイギリス侵入の噂の盛であつた一八〇三年は、イギリス、フランスの關係の最も切迫した時で、此年に出たもので二百四十五種が今日に残り、是等の畫には國民の堅き決心が表はれて居ると同時に愛國的熱情流露し、なほ一脉の不安の氣分が漂ふかのやうに思はれるのである。これについては、一八一三年から一八一五年に亘る自由戦争の時代で、一八一三年には百九種、一八一四年に百廿四種、一八一五年に九十

七種残つて居る。これ等の畫には愛國的熱情の外に勝利の確信がほのめき、敗殘の將を冷笑するの風が著しくあらはれて居るのである。また一八〇七年に三十七種の諷刺畫の残つたのは大陸制度のため、一八〇八年のイスパニヤ奮起の時に、八十枚の諷刺畫のあるは、半島に於けるイギリス軍の活動によるので、一七九八年に既に二十二種の畫の出たのは、イギリス侵入の風説とエジプト遠征に對するものであつた。

次にフランスの諷刺畫を見ると、諷刺畫は中世からあつたが一向に發達せない。フロンドの亂の如きは諷刺畫に好い材料を供給して居るし、ルイ十四世の時代には文學繪畫ともに榮わたけれど、諷刺畫の傑作はあらはれなかつた。これは一つはフランス語がギリシヤ語と同様に、思想や感情をあらはすに申分のない完全な言葉であつて、軽い洒落や鋭い皮肉も唯言葉の上に發達したからであ

つた。大革命の初からデレクトアールの時代まで諷刺畫の材料は澤山あるが、傑れたものは出ない。ナポレオンのエジプト征伐より歸つてからは、中心人物として、眞面目な繪にも諷刺畫にも多くあらはれる事となつた。たゞコンシユラー時代、帝政時代には、專制政治に關する諷刺畫は不敬罪として處罰せられ、新聞雜誌も、軍事上の秘密のため、また輿論をあやまらせぬやうに、嚴重な取締が行はれた。しかしナポレオンも、早く、政治的見地から輿論を喚起する手段として諷刺畫を利用し、部下に畫題を授け、美術家に命じて製作せしめたやうである。かのヨーロッパ第三大同盟の戰爭は、イギリス側の説では、ナポレオンのイタリヤに對する横暴から出來たもので、列強に戰意なく、勿論イギリスの煽動したものでなく、ナポレオンがフーセーに宛た手紙を見ると、ジョン・ブルが財布を手にしてその受取方を諸國に頼む諷刺畫

を作らせ、此度の戦争は全くイギリスが諸國を買収し、フランスに敵對させるものだと誤つた考をひろめ、輿論を誤らせやうと試みたものと述べて居る。此時代のフランスの諷刺畫家には、イサペー(Isabeau)ヴェルネー(Venne)父子、出版元にはマルチネー(Martinet)などがあるが、畫家出版元を記さぬものが澤山で、マルチネーの繪草紙店は繁昌したやうである。一七九六年に出た「指彈」は、ヘラクレスがその腕に上りくる多くの玩具の軍人をつつ／＼弾きつけてゐるが、唯ナポレオンはその肩まで上り、彼の棍棒を握んでゐる。ヘラクレスの背後に立てる勝利の女神は、此成功せる勇士に二つの橄欖の輪を授けんとしてゐる。これはヴァンデミエールの變によつて出世の緒を得た事を畫いたものである。一七九八年に出た「勘定」には料理屋でジョージ三世が獨り熟睡して居る間に、ナポレオンやオーストリヤ、イスパニヤの君主が

勘定を拂はずに出かける畫で、給仕は驚いて勘定を請求すると、悉皆ジョージが仕拂ふだらう、仕拂たいだらうといつて、歸りかけてゐるところである。これはその後屢々畫題となつたイギリスが黄金を以て列國を買收せんとする事を諷した最初の畫であらう。一八〇三年イギリス、フランスの關係の緊張した時には、海峽の兩側で盛に諷刺畫が出た。「ジョージの消化不良」はナポレオンがジョージ三世の頭を捉へ、「マルタ」、「諸國民の安全」海上の霸權などを吐き出させて居る。また一八〇五年に出た「幻燈」は、翌年の大陸制度を豫想せしめたやうな畫で、ナポレオンはイギリスの積荷の上に置かれた幻燈器械で、ジョージ三世やピットの前で、三つに裂かれたイギリスの地圖や、フランスの陸海軍の進行を寫し出し、これをながめてゐるジョージ三世は大いに驚き、王冠は地に落ちんとし、王の側に立てるピットの顔には凝色

たゞよひ、瘡せたイギリス人が積荷に腰をかけて居る畫である。ビットの危篤、引續き死亡の報がパリに傳はると、澤山の諷刺畫が出た。マルチネーから出た「ビットの死」は、ビットが悪魔に地獄へひかれ行くと、ビットと盲目のジョージ三世の首にかゝつた引繩が切れ、ジョージはイギリス政府罪惡貯藏所と記した囊を越えて穴に落ちる畫で、側には一人のフランス人が「アウステルリツの勝利」「大陸の平和」と記した紙片を示してゐる。これはビットの死によりイギリスの窮地に陥れるを諷したものである。これ等の一八〇三年前後に出了たフランスの諷刺畫は、直接ナポレオンを諷刺するものでなく、ビットやジョージ三世に對する諷刺畫で、同じ年に出了たナポレオンに對するイギリスの諷刺畫と對照してみる時は、頗る面白いのである。次に諷刺畫の盛であつたのは、一八一四年と一八一五年である。それより一年前一八

一三年には、「橄欖の枝」と題する美しい畫が出た。ナポレオンは橄欖の枝を持てる平和の女神に美しい花園へ誘はれて居るが、ナポレオンはこれを振り切つて、軍神の馬車に導かれて屍の横はる雪の平野に向ふ畫で、ナポレオンの主戰論を諷したものである。一八一四年、一八一五年のナポレオン没落の年には、ブルボン黨もナポレオン黨も盛に諷刺畫を出したが、敵國の諷刺畫にも劣らぬ殘忍な畫の出了た事は、後のフランス人の大いに遺憾とするところである。ナポレオンが鎖で岩に繋がれ、飢れた兀鷹の餌となるやうな畫も出了。また「エルバのロビンソン・クルーソー」の如き、ナポレオンをロビンソン・クルーソーに比した畫も出了。これ等は孰れも諸國に廣まつたコスモポリタンの畫である。また一八一五年四月に出了「十九年の光榮ある治世」は、一方にはナポレオンが粗末な食事をとり、食時の間にも勅令などに署名し

勤儉精勵の有様を寫し、他方にはブルボン家の君主が快樂を追ひ美食に飽く有様を寫してゐる。これはナポレオン黨から出た諷刺畫と思はれるのである。要するにフランスの諷刺畫は直接ナポレオンを對照したものには面白いものがなく、一八〇三年に出たジョージ三世やピットに對する諷刺畫に傑出したものがあるのは當然の事である。

次にドイツの諷刺畫を見ると、當時のドイツは諷刺畫の發展には不適當の國であつた。初め國民はナポレオンを壓制家や篡奪者と見ず、寧ろ自由の傳播者として渴仰し、ナポレオンの爲めに蹂躪せられてからも、萎靡振はざる國民的精神と美術とは、更にすぐれた諷刺畫を見せなかつた。一八一三年頃までに新聞「ロンドンとパリ」(後に改題す)に載せられた諷刺畫は、殆んどギルレー、ローランドソンなどのイギリスの諷刺畫の轉載模倣に過ぎなかつた。殊に當時のドイツのやうな哀

れな状態にあつて、ナポレオンを諷刺の種に使ふなどは、非常な危険であつた。従つて一八〇六年に出た「フランス鷺の勝利」の如き、一つ頭のフランス鷺が兩頭のオーストリア鷺を死地に陥れて居る畫も、ナポレオンの名譽を稱へる爲めに畫かれたものである。しかしながらイスパニヤの奮起、ついでロシア遠征の失敗は、ドイツ國民をして多年の屈辱を雪ぐべき勇氣と機會を與へ、フィヒテアルント等の愛國的運動に伴うて、諷刺畫家フォルツ(Voltz)、シャドー(Schadow)は盛に作品を發表した。既に二八一二年に「フランス軍の隨意退却」と題する諷刺畫出で、フランス軍の慘めな退却を寫し、一八一三年に出た「王冠修繕屋」は、ナポレオンが壞れた王冠を繕ひ居るところへ、ジョセフ、ジェロームからも王冠の修繕を頼まれ、當惑して居る有様を寫して居る。「ラインの急使」は、ナポレオンがチャールス大帝の頭を尖につけ

た杖を持ち、マインツとは反對の岸を走り、その背に負へる旅囊から、オランダ、スウイス、イタリヤ、ライン同盟などの地圖や新舊の軍團の畫などが風に煽られて落ちる、その下に、ラインの急使はライプチヒの市の歸途にすべてを失ふと記されてある。これはもどドイツより出たものに相違なく、イタリヤ、フランスにもひろまつた諷刺畫でライプチヒの敗北とその結果とを諷したものである。次に一八一四年にフォルツの「一八一三年の勝利」と題するナポレオンの横顔は、コスモポリタンの諷刺畫で最も有名なものである。これは一八〇六年ナポレオンのベルリン滞陣中にデーリングが寫したナポレオンの左向の横顔のスケッチをもとにして畫いたもので、一見原畫と似て居るけれど、その異なる點を明にするが爲めに、説明が加へられて居る。これによると、ナポレオンの帽子はプロシヤ鷲の形で、ナポレオンを距でつかん

で離さない。その顔には、彼の名譽のために犠牲となれる十萬人の代表者として少數の顔が描かれてある。襟は血の河に象り、上衣には解體せるライン同盟の地圖の一部が描かれ、彼の敗戦の地名が記されてある。ナポレオンの創定せる勳章の紐は、蜘蛛の巢に象られてライン同盟の全部を蔽ひ肩章は神の手に象り、ナポレオンの心臓の位置と思はれるところにうづくまる蜘蛛を殺し、巢を切りはらふためと記しあり。この畫はイギリス、イスパニヤ、オランダ、イタリヤ、ポルトガルにて少し宛形をかへて盛に賣りひろめられ、最後のヨーロッパ大同盟の結末に、諸國民を刺戟する事頗る大なるものがあつた。また一八一五年に出たフォルツの「強盜の巢窟」は荒廢せる古城が畫かれ、一見強盜の掠奪品を運ぶ巢窟であるが、熟視するごと、ナポレオンの横顔になつて居る小供の繪さがしに類したものである。かやうに一八一三年以後

のドイツには一八〇三年のイギリスと同様に、意氣あるまた傑出した多くの諷刺畫が出た。これはイギリスと同様に、國民の愛國的熱情の助成したものである事は勿論である。

次にイタリヤの諷刺畫を見るに、イタリヤ國民は、初めナポレオンを自由の傳播者として迎へ、従つてオーストリヤの將軍ボーリユー、ウルムゼルに對する諷刺畫が出た然るにカンポ、フォルミオの條約により、ナポレオンに裏切られたとして大いに彼を怨み、一七九七年に出た諷刺畫「勘定」には、ナポレオンとオーストリヤのカールがカンポ、フォルミオの旅舎を出る時、宿賃の請求を受ける、その下僕がヴェニス辯で、私が仕拂ひますと答へて居るところが畫かれてある。ヴェニスの犠牲を諷したものである。またエジプト遠征の時には、イタリヤではナポレオンが到底ヨーロッパへ歸れまいと考へたものと見て、一七九九年の

初に諷刺畫「木乃伊」が出版せられ、ナポレオンは木乃伊となつて棺に入れられて居る。しかし一八〇〇年以後のイタリヤは、たゞナポレオンに盲従する外途なく、傑出した諷刺畫などが出る筈はなかつた。一八一四年にナポレオンの運も盡き果てた頃から、ナポレオンに對する諷刺畫が出たが、大抵外國の模倣に過ぎない。「幸福な急使」は「ライオンの急使」から出たもので、ロンバルヂヤあたりに廣めるため、ベルリンで出したもので、その外フォルツの「一八一三年の勝利」の燒直しなどが主なものである。パリとウィーン、孰れかの勢力に屈従すべき運命をもつたイタリヤに、國民的自覺に基くやうな傑出した諷刺畫の出るを求むるのは誤である。

次にイスパニヤの諷刺畫を見るに、此國程ナポレオンの御影で悲惨な境遇に陥つたものはない。その反動として、一八〇八年から一八一四年まで

のイスバニヤ國民の奮起は、ドイツ國民の奮起に劣らない程盛なもので、ゴヤ (Goya) の如き畫家が現はれ諷刺畫が國民の愛國心を鼓舞した事も頗る大であつた。然しながらその大部分は、イギリスのギルレーやローランドソンの模倣に過ぎなかつた。これはイスバニヤ人が、一八一三年のドイツ國民と異り、學問や一般の素養が無かつたからであらう。

次にロシヤの諷刺畫を見るに、その自然と同じく他國と異り、單調怪異粗野の風がある。ロシヤの諷刺畫家で名高いのはテレベチフ (Terebent) で、當時イギリスとロシヤの親密な關係は、諷刺畫にも影響を及ぼし、テレベチフの畫は多くイギリスに入り、クルックシヤンクやギルレーとテレベチフとは御互に模倣しあつた。ロシヤの諷刺畫は大部分一八一二年、一八一三年に出た者で、ナポレオンのロシヤ征伐に關するものである。一八

一二年に出たテレベチフの「診察」には、二人の醫者がナポレオンを診察し、甲の醫者は頭と脈を驗乙の醫者は、目鏡をかけて舌を驗てゐる。甲の醫者の言ふには、「頭が恐ろしく熱いのは狂氣じみた計畫が思ふやうにゆかなかつたからだ、脈搏の弱いのは出血のせいだ」。乙の醫者が言ふには、「舌があれてゐるのはあまり虚言や大言を吐いた罰だ」。ナポレオンは悄然として、「出来るだけ早く歸りたい、ロシヤの氣候は私の身體にふさはぬ」とこぼしてゐる。また同じくテレベチフの「踊の稽古」は二人の百姓がナポレオンを踊らせて居る畫で、一人は鞭を持つて威し、一人は笛を吹き、これに合せて踊らせて居る。一八一三年の初には、イギリス及びロシヤからナポレオンの退却を畫題にした多くの諷刺畫が現れた。テレベチフの「ナポレオンのロシヤ土産の鼻」には、ベルトラン及び二人の醫師がナポレオンの長くなつた鼻を見て居る。

ナポレオン「これはロシヤ人から貰つた鼻だ、こんな顔をして人前には出られない、何とか短かく出来まいか」、甲の醫師「切るより外に途が御座いませぬ」、乙の醫師「陛下の御命がうけあはれませぬ」、ベルトラン「どうしても短くする事はなりません、ロシヤの霜でかゝる姿となつたとバリー人に申す外道はありませんぬ」。この外ロシヤ人が勇敢に戦つた事を書いたものや、ナポレオンが木の馬に乗り不具の士官を率ゐて歸國するやうな畫が澤山にあらはれた。

次にオランダは如何といふに、近世の初から本國で出版の出来ない書物や諷刺畫は、みなハーグやその他のオランダの町で公にせられ、新舊兩教の宗教戦争や、イギリス、フランスの内訌に關する諷刺畫が出版せられた。従つて諷刺畫の出るには絶好の時である十九世紀の初には、オランダから面白い諷刺畫が現れそうなるものであるが、かや

うな豫想は全く裏切られたのである。「乞食」時代の熱烈な宗教心や愛國心は、今は全く衰へ、フランス軍の蹂躪によつてその屬國となり、陸にはフランスの壓迫を受け、海上にはイギリスの爲に大打撃を加へられ、國民は意氣全く消沈の姿で、諷刺畫などもすぐれたものが出やう筈がない。一八一四年、一八一五年の覺醒時代ですら、たゞイギリスの諷刺畫に説明を加へて出版したり、ドイツやロシヤの諷刺畫の翻案に止まつたのであつた。またスウイスにも諷刺畫としてすぐれたものはないけれど、たゞナポレオンに關する諷刺畫は、早く一七九七年にヅンカー(Dunker)のエツチングとしてあらはれて居る。此外スウェーデンの諷刺畫も、ドイツ、イギリスの諷刺畫の模倣に過ぎなかつた。

今私はブロードリーの書を読み、挿畫としてはさまざま澤山の諷刺畫を見て、政治的諷刺畫に免

れの淺薄な諷刺に慊ず思つたけれど、かゝる淺薄な諷刺畫も、その當時の興奮せる諸國民の頭には異常の影響を傳へた事は信じて疑はないのである

藤原時代の容儀服飾に就て

文學士 江馬 務

一國の風俗は以て其の國を象徴すべく、一世の容儀は以て其の時代を測知すべし。我が風俗史を通觀するに、古來國人がその容儀服飾について、深く其の心を致し、粉飾盛裝以て、一代を劃すべきもの、古く其の例を求めて藤原時代を得、近く儔を探りて江戸時代を得。然れども是等二時代の風俗の美は均しく上下を通じてこれありしに非ず前者は多く宮廷堂上諸家に、後者は専ら町家花柳の巷に存したりき。今藤原時代、殊に藤原氏の榮

華を極めし一條天皇の頃を中心として其の容儀服飾の概略を叙し、以て時代世相の側面觀察をなすむとす。

藤原時代の容儀を述ぶるに當りて、先づ觀るべきものを男女の髮風となす。男子は總じて頭髮か剪りて短くし、女子は之れを延ばして昔ながらの垂髮となす。男子の結髮には冠を戴く人の鬚として冠下の髻あり。髮を百會に束ね紫元結を巻き立てしものにて(1)その起原の早く冠の巾子を生ずる以前にあれば、平城嵯峨天皇の頃にあり。(2)又一般男子は只髮を百會に緊束して後方に垂れしのみ。(3)

(1)源氏物語桐壺卷源氏元服の條に「結びつる心も深き元結にこき紫の色しあせず」

(2)相摸圖、伴大納言繪卷、貞丈雜記卷二に後世の結法見ゆれこ中古に定法なし。

(3)茶釜の形に似たれば俗に茶釜といふ。大江匡房洛陽田樂記